

100号記念 FUJI E NEWSを振り返る



April. 2018 vol. 100

発行所／
 (株)フジ環境サービス 技術グループ
 発行人／山本幸弘
 編集人／一柳考志・井上富子
 愛知県岩倉市鈴井町中島96番地
 〒482-0035 ☎ 0587-66-6218
 ✉ gijyutsubu@fujikankyo.co.jp

今月の虫予報
Insect Phase Forecast

虫種	発生状況			
	少			多
ユスリカ	[Progress bar showing high occurrence]			
チョウバエ	[Progress bar showing moderate occurrence]			
タマバエ	[Progress bar showing moderate occurrence]			
トゲハネバエ	[Progress bar showing low occurrence]			
タカラダニ	[Progress bar showing high occurrence]			

チョウバエ、ユスリカなど各種の飛来虫は急増し、発生ピークの水準に近くなる。暖かい日や雨上がりなどには注意が必要である。トゲハネバエなど冬季に増加する虫の発生は終息に向かう。タカラダニも各地で急速に増加し、後半から来月にかけて発生ピークを迎えると思われる。晴天時には特に注意を要する。

一番よく虫が捕まる
 捕虫器
ゲッター

100号を迎えてのご挨拶
 平素より格別のご厚情を賜り厚く御礼を申し上げます。8年前には予想だにできなかった事象があり、それに上手く対応をしてきていたからこそ今があると考えます。当社は自主行動し「ありがとう」と言っていただけのを理念に掲げておられます。これからもめまぐるしく変わる環境に、いち早く自社を適応させられるよう、日々業務に取り組む所存です。今後も変わらぬご支援の程宜しく願い申し上げます。
 代表取締役社長 繁田芳秀

おかげさまでFUJI E NEWSは100号を迎えることができました。2010年の創刊から今日までFUJI E NEWSは防虫・衛生に関する情報及び虫の小断をお客様に提供することをテーマに続けてまいりました。今回は100号を記念して、今日までのおよそ8年間における、代表的な出来事を取り上げ、その歩みを振り返ってみたいと思います。

FUJI E NEWSの創刊

FUJI E NEWSは2010年1月号より始まった。第一号は毛髪対策と防虫マップの特集を行った。

東日本大震災での支援活動

2011年、東日本大震災が起きた。弊社も微力ながら、日本ペストコントロール協会の要請を受け、被災地の衛生状態の回復のための消毒作業支援に参加した。(2011年8月号)



実際の作業の様子

PEST WORLD 2012

2012年10月、マサチューセッツ州ボストンにて開催されたPEST WORLD 2012に参加。ペストコントロール先進国であるアメリカの最新の技術・思考を積極的に取り入れた。(2012年11月号)



展示会場の様子

セアカゴケグモ

2012年9月、毒グモとしてよく知られる外来生物セアカゴケグモによる、国内初の咬傷被害が出たというニュースがあった。本種の生態について取り上げ、注意喚起を行った。(2012年11月号、2014年10月号)

マダニ

2013年1月、国内で初めて発熱や血小板減少等の症状を呈し亡くなった患者が、ダニ媒介性感染症であるSFTSウイルス(SFTS)による感染症と診断された。これを受け、マダニの生態について取り上げた。(2013年4月号)

デング熱

2014年8月、国内で70年ぶりにデング熱の感染が確認された。デング熱を媒介するヒトスジシマカの対策を特集し、注意喚起を行った。(2015年7月号)

アニサキス

2012年の食品衛生法施行規則の一部改正で、アニサキスが食中毒の病

ヒアリ

2017年5月に神戸で発見され、各種報道で話題となったヒアリの特集を行った。ヒアリの形態・生態的特徴及び危険性を確認した。(2017年7月号)



FUJI E NEWSの目指すもの

近年、衛生・害虫に対する市民の関心は高まっているように思います。今後も旬な話題を優先し、取り上げていきたいと思っております。外来種等の新たな脅威に対し、各種報道は、不安を煽りがちですが、防虫のプロの立場からの確かな情報を伝えるて行きたいと思っております。

昆虫標本の害虫

ヒメマルカツオブシ、コナチャタテ類は、言わずと知れた家庭や工場における重要な害虫であるが、昆虫標本の重要な害虫でもある。虫に食害された標本は、大概、虫のピン下に黒い粉が幾らか落ちており、それで被害に気付くことが多い。毎度、その際になって防虫対策をしなかったことを悔やみ、慌てて対処することになる。

コナチャタテ類は、標本の周りを歩き回っている際に気付くことも多い。体が小さいので、標本を食べるスピードはかなり遅い。そのため見つけたら、直ちに薬品で駆除すれば被害を最小限に食い止めることができる。体がやわらかい虫を優先して食べるようではチョウやハエなどの標本は、被害に遭いやすい。ヒメマルカツオブシは、食害のスピードが速く、一度食いつかれてしまうと被害は甚大で、最も注意しなくてはならない。大型の甲虫の標本の場合、外殻は、ほぼそのまま、器用に中身だけ綺麗に食べられたりする。春は本種成虫の発生・分散時期である。外部からの侵入には注意したいものである。

本紙への「意見」感想を是非ともお寄せ下さい。発行所宛にメールをくださると、とてもうれしいです。ご意見を取り入れてさせて頂いた方には粗品を進呈します。



他社製品に比べ捕虫効果がおよそ6倍

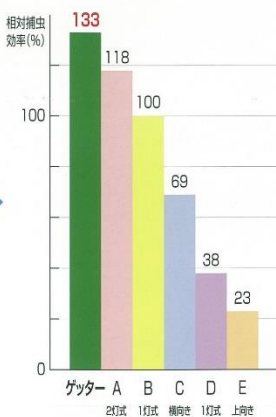
他社製品との比較

30㎡で高さ2.5mの部屋内において、夕方窓を開放して、屋内の蛍光灯を点灯し、誘虫する。その後、高さ1.5mの位置に2種類の捕虫器（機軸としてBを使用）を設置し、以下の手順で試験を行った。



結果

※B=100%とした場合の捕虫効率



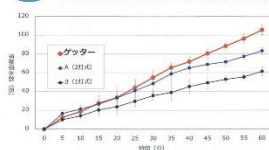
- ①翌朝、捕虫紙を回収し、付着した虫を計数する。
- ②捕虫器を変えて同様の試験を行う。
- ③同様の試験を各6回繰り返す。

※捕虫紙の付着は虫体の上にのみ発生する。
※捕虫紙の付着による虫体損傷の発生がないことは予備実験において確認している。

- ゲッター 捕虫効率が最も優れており、最大でおよそ6倍であった。
- ゲッター 他の捕虫器では捕獲されなかった大型のハエ類が多数捕獲された。
- ゲッター 受け皿型の捕虫紙と25W×2灯形状が捕虫効率を高めているものと判断される。

強力な捕虫能力で、素早く虫を捕獲出来る

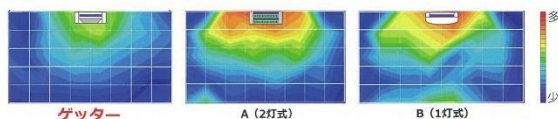
ゲッター 他社捕虫器と比較して短時間（60分）の捕獲テストでもおよそ2倍の捕獲であった。



※光が相互干渉しないように3m間隔でライトトラップを屋外に設置。
※ライトトラップの設置場所は回数ごとにそれぞれ入れ替えている。（8回反復）。

誘引された虫の落下・飛散が少ない

ゲッター 誘引された虫の落下・飛散は他社製品と比較して最も少ない



捕虫された虫が落下飛散しにくい

ゲッター 捕虫紙ホルダーの形状により、粘着紙に捕獲された大小の虫は「落下・飛散」しません。二次的な混入も無く安心です。

